



搜玉集
 春集之部
 大

~ 5
 2169





櫻玉集刻なる書を送るもの遺物也
 古流りたつる書もの金念の箱も序
 こゝろを脱ししもの序
 かの草稿中一場の尾録をたゞ鳥
 有る病の病おもふまゝに折る所
 果ては鳥有の郷に帰まふこと

明治四十二年四月廿四日
 藤井 津
 氏寄贈

出多し廿集の送懐めさるし廿集はるる護あ
れ遺懐かこころなすのりくはみごと何
きり廿稿の身は疎きある處かくを
ひきかきしちのほと其依めをえと申急ぐとく
ちまひりしきり曰夫况世の春句と類題
はるの猶事かあとのいささきしはるる如
左一との入りの云はける句もを踏さう一級
二級を急持まもしく行くと疎まら甚多のれ事か

とたあをりしちあゆみ初集は能れみあはる
大有力の人なきしものもあむれや世の心はみま
ひきりしきりし題を多し何所抄子に境ん子への
務んたるはあはるるを急しはるる此
集かつしきりし其題は句の境界かを置と
いさかそくは捷行かひのりかきしきりし其題の
古事しきりしあはるる思ひ合はるる其題のあ
る後を奥底かきりし拙きつて春句のあ

味多や 寂也

放まら

杖のさす

解

凡例

○おほよそ依譜の後句と題を分ちて記載するもの
源氏物語の題は後句の形を以て記載するもの
ちりきり記載するもの
行凡そこの搜玉集ハその首字の始めよりおもひ
とらて草形をうけり
至る凡そこのむかひくまむかひをうけり
先依人金令の系譜業法の花の筆記より
くの依譜の金玉を搜り
く是等の句をもくえり

のついでに、かゝる撰者の句を、よく、と、き、く、ハ
 句の不足を補ひたる、は、き、中、一、子、記、し、を、き、と、き、と、告
 近き、は、併、し、ん、の、序、を、わ、き、と、思、ふ、ハ、う、の、も、語、を、
 人、を、色、と、蒙、多、の、福、を、詩、格、の、例、に、似、へ、
 。 卷、中、一、必、有、を、記、し、
 志、り、れ、て、始、に、名、を、列、録、て、お、も、か、ち、見、安、う、
 古人、の、圖、を、大、を、記、し、て、彼、を、守、ま、す、日、名、の、似、を、
 多、く、を、ま、す、必、有、を、
 何、く

山城

名録 任題次不論前右

○方廣	○車蓋	○月湊	○馬印	○稷竹	○諸九尾
如泥々	蒼虬	百池	貨僕	土卵	寸丈
雪雄	梅價	金菜	杜蓼	路一	木海
守三	千崖	六倉	乙彦	月峰	空阿
五芳	梅兮	定雅	布雪	其成	岱李
尾全	棋肆	瓜坊	李竹	吳老	一扇
遲春	故友	茶来	紫金	桐栖	三味

京

。 蕪村

菁野	赤男	如山	木老	羅文	杉五	奇洞	長高	木仙	釣翁
藻臨	湖弓	核伏泉	禾木	古川	我雪	揚雄	米彥	友國	一草
松高	玉甫	可成	祗白	真拙	百舉	扇暑	魯隱	蜂友	大阪
湖分	方中	其友	竹吾	福米	一肖	三津人	萬和	匡竹	大江丸
竹因	方貨	孤龜	竹兒	七越	林下	菴十	屋鳥	尺艾	年六
幽季	百卿	梧柳	耕雲	星譜	琴亮	古樂	瑞馬	月居	二柳

武陵	吳友	子雄	李冬	圭々	菊裡	喜存	叢六	百慕	萬壽友
守豐	蘿屯	如耕	青青	方馬	古岳	河內	焉明	律山	井左
光浪	朗光	吐山	千柳	徐覺	大和	耒耜	和泉	魚眼	梅一
野楊	巴人	長水	林糸	其梁	魚徠	笛	清屈	自樂	模立
丹後	丹波	三喬	可翠	和翠	緩駕	雪橙	天光	井眉	一枝
万籟	青阿	杜口	左一	霞村	仕候	燕之	千枝	一我	夷

○綾彦	梅岡	棹歌	尺城	野江	家鷄	糸人	美作	菊石	巍道
長門	安藝	孤舟	備中	楚狂	播磨	逞素	梅人	蛭吹	百春
羅屈	篤老	八重女	春樹	菊雄	青蘿	無一	祭女	嵐水	歸來
万井	九十	晉和	溪堂	杜流	玉屑	百丈	玉川	太柏	草臺
豐前	玄蛙	石草	曉翠	梭磨	蝸国	李青	鶴六	冬曠	如毛
露竹	可友	五蓬	介	寬里	備前	宇橋	如斯	肯厚	出雲

蘭文	三津名	綺石	五由	糸遊女	写月	芦舟	東阜	其嵐	儿卜
竹市	天外	肥前	五中	婦來	以木	甚曉女	豐後	木父	文砂
薩摩	芳水	伊先	東鶴	里芝女	麻彦	鯉尺	巽我	巴丘	玉泉
琴洲	日向	莫二	化竜	筑後	三顧	龜六	葵亭	來同	露白
泰昌	其芳	菊也	月露女	畔鶴	徂牛	下住	月化	黑水	万里
伊豫	澆水	和川	肥後	三波	筑前	弗水	五杉	○沉流	跡六

竹世	花陶	魯吟	芳之	李長	弓雄	阿波	春祐	涼瓜	擗堂
還古	于當	惠徧	相翠	若狹	李徑	草史	都克	靜山	画中
春雄	子女	芟九	祐昌	烏白	有則	履一	贊岐	樸水	何童
米友	千影	三省	龜梁	近江	左學	蘇尺	春耕	露堂	桃坡
宇洋	申脊	烏頂	亞漢	驥道	鷗里	菅六	天回	雪蓬	五橋
士明	鶴峰	二厨	可盈	重厚	淡路	禹門	葛也	浮舟	鳥旭

昌作	松国	藤壽	蚊山	菊所	竹芝	烏翠	青川	額来	伊賀
春暉	其白	梅彦	竹之	推已	凉壽	對雪	素因	来汝	若翁
曉浦	渙舟	斧枝	丹霞	月耕	梅六	霞外	敬叟	坡仄	猪来
里朝	六車	鷺洲	青芝	归来	楚山	蘿道	椿堂	麻父	伊勢
宗雨	野度	居夕	南阜	宗古	梅堂	李東	達三	杜影	擗良
岱朗	典踞	桃彦	雨木	如一	宗巴	淇石	菊守	丘高	羅外

木朶	東陽	咲菊	梅回	魚堂	松兄	塩叟	蕭雪	卜蝸	寸陽
卓池	呂川	而后	足彦	卧央	白國	宗居	雪三	千年	巨洲
梅老	鮪汀	少汝	茶陵	羅城	士明	尾張	虛舟	翠川	月蕉
秋拳	姜濃	路郭	紕	岳輅	方明	曉臺	介立	梅樓尼	雁踞
臨莖	蛙春	大巢	竹有	昆明	岱青	也有	杉廬	應崑	烏章
木芽	三河	我竟	宣彦	塊翁	挂五	白尼	也六	省吾	呌友

漫々	露竺	松蘿	烏扇	玉珂	龜鱗	洞々	岱松	春鴻	沈芝
平歡	丈水	雀角	亮儿	石老	珠山	二秀	豊水	葛三	遠江
嵐外	起石	九阜	那漢	岩甲	永枝	盞屋	鳥沙	叙来	五雲
臺眼	甲斐	秋菜	妻里	鳥流	東湖	李翠	薰岱	雉啄	駿河
蟹守	可都里	江水	東玳	芝得	隣松	棠憇	一愷	豊女	石蘭
如松	樵村	長羽	龜洲	鷄山	雉扇	雲舍	縣々	九二	相模

巨水	時喜雨	其翠	斗入	微帶	伯先	梨翁	柳莊	吐雲	百二
斗山	桂枝	風芝	仙	真蕞	信 <small>乙乙</small>	龜丈	後龙	龍得	百慈
蘭窩	奇石	麻直	松井	虛白	少報	故園	文兆	儲吏	真恒
名恒	大常	草均	鹿古	加賀	素築	奇峰	王蓬	步簫	園亭
雲人	五葉	年緒	甘谷	千代尼	菊成	八朗	可厚	信濃	秀哉
三兔	湖山	真澄	末石	眉山	何九	千尋女	雲帶	希言	孫彦

屏魚	秋帆	梅笑	其興	蓬袖	越後	席曉	背月	白年	能登
此江	旭踏	呂水	旭浪	莊二	踏丈	伯芝	百甬	知竜	寒崖
乙老	李宙	卓 <small>上</small>	東陵	石海	宜啓	く子女	因雅	魚易	越中
佐渡	田都喜	貞風	東嶽	吟糸	尤琴	逸英	晉峰	北冥	嵐丈
良談	夜江	藍卯	二川	五雲	由都留	雪幸	東一	五湖	吳山
出羽	知及	巢也	弄山	於久母	三營	為命	甘行	乾走	蓬山

遲月	翫二	為代女	雲中	雲	雲	乙二	夫芝	淋山	長翠
得雨	扇風	素	嵐庭	買月	鷄路	雨考	營菴	衛足	五明
仙雅	文	桂裡	壺山	旧友	雪堂	雄洞	巢居	陸奧	野松
露中	常陸	紫山	与人	東芽	平角	寬兆	銖舩	白居易	渭翠
柿丸	道隣	如山	繁里	丈兆	夏南	素龜	乙因	松	河道
義香	岸根	柴明	かつひ	冥々	布席	且々	根教女	園南	五貢

牛乳	存阿	百羅	斗圍	輪之	淡高	東季	李尺	利根古	山子
笙々	菊女	其石	安房	三化	嵐兆	掃石	松江	山有	文蝶
青岐	恒丸	中雄	杉長	浩凌	茂未女	真彦	昭眉	藏六	聽雨
廣陵	雨塘	悅二	素共	梅月	上総	雨麥	三有	千萬里	風實
素孝	梅史	仙舟	素水	知方	俚言	泉之	蘭魚	竹雪	霞浦
長湖	素迪	下総	平雄	里丸	瀨陵	無長	雪守	万丸	

○雨 色	○柳 兒	月 鴻	阿 兮	茅 丸	上野	椿 海	巴 蚩	李 峰	普 記
國 村	○喬 孤	竹 溪	輪 雲	旬 光	○蘿 月	如 翠	魚 之	桂 丸	胤 文
可 來	○巢 兆	根 管	鹿 太	九 雀	浦 人	濼 川	素 考	金 堤	鱗 々
五 石	○星 布尼	可 良	川 二	雞 周	壺 半	陶 里	兔 水	下野	鶴 老
東 圃	○也 好	米 室	巨 屏	桃 几	○朴 哉	柳 起	芳 竹	中 之 岐	永 遊
麥 穗	○一 粟	武藏	○ 女	茂	松 司	旭 居	北 岱	魚 文	危 邛

得 阿	竹 山	年 守	觀 海	朱 砂	夫 山	更 女	古 言	岩 翠	有 裁
曾 逸	鯉 隱	和 調	一 步	乙 海 女	寸 艸	一 桑	魚 連	周 里	呂 律
扇 賀	成 章	兼 歲	耕 雲	榮 子 女	樗 白	市 采	梅 溪	雙 鳥	是 翠
雨 蛤	三 巴	桑 山	東 壽	谿 存	琴 女	有 臺	石 鷄	太 良 彦	燕 市
江戶	峨 山	少 年 岐 山	為 梁	梅 丈	一 雨	粟 蛾 女	白 度	南 井	五 繩
○存 義	喜 篤	大 樗	道 也 七 女	冰 佳	周 居	麥 花	南 鵠	樂 水	貞 秀

卓老	らこ女	孤山	一蕙	政々	梅人	白養	班象	宗讚	蓼太
袁丁	龜山	さろ雄	寡松	道彦	莎笠	ノ且	兌堂	烏明	鳥醉
棧車	与洲	倫市	瘦菜	名彦	富屋	完来	沙羅	柴居	柳居
黙高	古聲	鶯卵	梅壽	漣漪子	朶年	午心	政二	祇徳	白雄
雪人	鵬脊	守靜	こじ	玉光	壽翁	胡準	雪万	太無	吐月
曉河	泰水	ちこ女	渡屈	石芝	無説	成美	川上茂 不白	保吉	樓川

双湖	與山	對良	青牛子	警洲	天民	不尽	右雄	普成	曲阿
菜塢	水直	草芝	警雪	花川子	克一	梅塢	確嶺	一鷲	文貫
花笠子	月守	北元	かつ女	直也	喜山	曾牛	窓雨	九朴	あつ女
菜山	豊岡	麻交	掌笠	列山	杉露	敬義	龜遊	松欣	清素尼
素玩	知昨	尤麩	五鹿	せい女	榎美	かの女	荷乙	竹妓	可九
炉扇	茶靜	對山	蕉雨	明石	士升	竹里	樂只	碩布	輕舟

序五

序五

扇和	亭馬	春葦	文一磨	風谷	黑絡	子系女	應々女	草夫	虛舟
北賀	里外	<small>少女</small> ち	啓山	為徑	而男	輕子	河子女	南汀	頤高
五陵	中周	太節	一峨	芳居	訓山	車兩	子々女	竹馬	燕陵
利雪	交樟	桃生	千河	宇橋	成之	仙技	乎馬	榮枝	淡水
萬里	兼後	山松	春谷	鹿阿	季道	仙骨	詠歸	不騫子	其堂
芳洲	武山	不木	文晁	杜英	松丈	桂羅	楚遊	雪彦	明良

松技	素撲	月一	李江女	義山
松杜	秋耳	新賀	來賀	有月
萌志	石馬	石馬	吳莠	鷄羅
嘉川	蟠	蟠	司馬女	心非
光人	<small>花女</small> 江川	江川	麥例	盤布
馬雪	箕青	箕青	久臧	春來

序

卷

俳諧搜玉集

春日錄

佛座	人日	萬歲	喰積	初夢	御降	正月	立春
飾焚	七種	傀儡師	穂俵	着衣始	初鴉	枕保姐	初春
養父入	若菜	猿曳	太箸	書初	若水	元日	今朝春
御忌	齋	子日	水祝	門杵	初曆	初日	御代春
春寒	芥	小松引	羽子板	蓬葉	寐積	初空	花春

月
世
五

温	二	猫	百	草	松	散	東	凍	余
繁	月	戀	千	前	花	梅	風	解	寒
彼	衣	白	鳥	莖	木	柳	春	長	春
岸	更	魚	驚	立	芽		風	閑	雪
西	初	蛭	雲	露	若	青	福	陽	淡
行	午		雀	薑	草	柳	壽	炎	雪
忌	事	海	士	土	春	梅	草	系	殘
水	納	苔	駒	華	草	柳	梅	遊	雪
口	薪		鳥	士	下	椿	梅	霞	雪
祭	能		鴛	草	前		月	解	解
二				若					
日				葉					
灸									

種	蒜	蕨	菜	芦	連	紅	山	臙	出
仰		花	芽	翹	梅	笑	月	代	
種	蠶	杉	大	葭	五	花	山	臙	貝
漬	蠶	菜	根	子	形	待	燒	夜	寄
鹿	摘	薺	獨	篠	蒲	初	燒	春	鳳
落	草	花	沽	子	公	花	野	夜	巾
角					英				
泊	知	五	山	接	薊	初	春	春	春
山	打	加	葵	穗		櫻	野	兩	日
		木							
朝	苗	枸	早	指	茅	糸	春	春	春
鷹	代	杞	蕨	木	花	櫻	水	山	月

花見	花雲	春霜	雛	三月	和布	蛙子	雀子	乙鳥	雉子
花守	花曇	別霜	汐	弥生		蛙	初蝶	鳥交	春雁
散花	花曇	永日	念佛	上巳		墓	蝶	鳥巢	帚雁
櫻	花雨	遲日	峯入	鷄合		蛇出穴	蜂	春鳥	曳鴨
山櫻	花雪	春海	炉塞	曲水		田螺	蛇	鳥	引鶴

蠶	鳥入雲	葱花	藤	海棠	八重櫻
暮春	麥鵝	三月菜	馬醉木花	木瓜花	遲櫻
若鮎	青麥	青麥	董	辛夷	散櫻
蛤	茶摘	茶摘	女子草	山吹	桃
蛭	喚子鳥	喚子鳥	水艸生	躑躅	梨子花

抄王自撰下

夏目録

若	若	盧	夏	夏	葵	團	綿	立
楓	葉	橋	月	書	祭	扇	拔	夏
牡	青	抽	夏	昼	大	蛭	裕	四
丹	梅	花	山	寐	矢			月
芍	櫻	茨	夏	短	灌	新	夏	卯
藥	實	花	川	夜	佛	茶	衣	月
葵	葉	花	卯	明	花	青	日	青
	櫻	花	花	安	御	さ	傘	簾
罌	葉	檉	桐	夏	夏	筑	扇	更
粟	柳	花	花	夜	篔	摩		衣

粽	五	蚊	子	蝙	鷄	杜	麥	苔
	月		子	蝠		鵲	刈	花
苜	幟	蚊	蜘蛛	蚊	鷄	老	麥	杜
蒲		遣	子	喰	飼	鷲	秋	若
苜	飾	蠅	蛭	蝸	松	烏	茄	鷲
浦	太			牛	魚	鳩	子	尾
酒	刀							花
帷	競		毛	枝	鮎	割	覆	木
子	馬		蟲	蛙	葦	葦	盆	艸
					鳥	鳥	子	茂
半	印		蛭	蚤	鮎	行	鷹	木
夏	地				子	子	入	下
生	打						時	閨

抄王自撰下

目録三

梅雨集上

六月	鬼子	鶯音入	澤瀉	紅花	姬百合	柿花	竹植日	夏雨	梅雨
水無月	螢	水雞	蓴菜	藻花	夏菊	山梔子花	若竹	早苗	梅雨晴
冰室	照射	蒼鷺	川骨	苳	撫子	紫陽花	合歡花	田植	五月雨
夏冰	火串	鷓鴣	蓼	真菰	酸醬草	南天花	樗花	早乙女	五月鬧
富士詣		鳩浮巢	鹿子	青芦	十藥	百合花	栗花	粟蔣	虎雨

翡翠	夏野	綿花	夕顏	汗拭	水飯	月涼	雲峰	土用	祇園會
蟬	青田	瓜花	昼顏	夏瘦	心太	納涼	夕立	虫于	祭
夏虫	田州取	瓜	葱	百日紅	一夜酒	清水	青嵐	暑	鞍馬竹伐
灯取虫	川狩	夏芒	葎花	凌霄花	蓴	晒井	風薰	夏日	施米
御枝	羽拔鳥	夏草	麻	蓮	竹婦人	葛水	涼風	炎天	雨乞

夏虫集上

夏虫集上

撰註集此

名越後 茅輪 秋近 復景

自錄

揮
舞
如
引

附

持乃云

藤年深氏遺愛之記



俳諧搜玉集卷之一

立春

○春之部

曰喜尊護物輯

春の山や梅さきくさの枝の先

士朗

二つも三つも顔のまじりや

丘高

春のつらさや花の用は

長齋

さるまじりや帯の横は

一瓢

さるまじりや帯の下は流るや

五杉

鳥の羽は足さむる春の光を

持良

初春のよさをしのぶる雪の降る

緩鶯

豊後集

今朝春

ちの春や板戸舟の菜大根
 初らるや出歩けし見り親子
 日のもともさるやきききききき
 人の親のまろくえんくを親の春
 花の早の傍に生えあけりききの春
 ままよぬ人くくくくくくくく
 山崎のよの子持りくくくくくく
 くくくく子孫名も名もくくくく
 市代の春男と女ハ形くくくく
 糸人の謎をくくくくくくくく

御代春

太郎彦
 雉啄
 柳八
 松兄
 蛙春
 樽雄
 南井
 如泥卿
 貞松
 玉光

花春

花の春や板戸舟の菜大根
 初らるや出歩けし見り親子
 日のもともさるやきききききき
 人の親のまろくえんくを親の春
 花の早の傍に生えあけりききの春
 ままよぬ人くくくくくくくく
 山崎のよの子持りくくくくくく
 くくくく子孫名も名もくくくく
 市代の春男と女ハ形くくくく
 糸人の謎をくくくくくくくく

正月

蒼虬
 屋鳥
 浦人
 一蕙
 瘦菊
 みち彦
 乙二
 葛三
 弁六
 寛兆

佐保姫

佐保姫の弱もよまぬ鼻毛の
 さはねやうはをえ送るはの上
 佐保姫のあまもくもや扇の折
 さはねやうはをえ送るはの上
 さはねやうはをえ送るはの上
 元日やまきのうまきさき
 えりしあひのまきさき
 えりのうまきさき
 えりかき二日のまきさき
 えりや苗さき

祟兆
 葛三
 且こ
 叙来
 仙雅
 移竹
 闌更
 春鴻
 雪雄
 植付

元日

初日

初日氣さるやう田ハ初日の
 日かきし先神こく告まき初日
 おはきさるやう前ハ初日の
 かきさるやう伊まきの初日の
 初日やみ越さるやう灯をきめす
 初日やみ越さるやう日め光
 初日やみ越さるやう信をきめす
 初日やみ越さるやう信をきめす
 初日やみ越さるやう信をきめす
 初日やみ越さるやう信をきめす

芦舟
 菴十
 輪之
 美と
 美と
 星布尾
 孤山
 幸雄
 乙二
 鼠大

初空

御降

初鳥

昔年の夕暮るるに 春の鳥
 赤い雉のさきも 雨夜に
 昼くハ畑の 鶉
 卯鳥のさきも 浦の人
 志くハ 中をわたり 鶉
 有羽をくさ名も 鶉
 去つ鶉 去年のさきハ 鶉
 鶉のさきも 鶉のさき
 鶉のさきも 鶉のさき
 鶉のさきも 鶉のさき

守閑 西考 班象 雄渾 芦舟 野鶴 自樂 二柳 抑居 守静

若水

初曆

若水や 鶉のさきも 鶉のさき
 鶉のさきも 鶉のさき
 鶉のさきも 鶉のさき
 鶉のさきも 鶉のさき
 鶉のさきも 鶉のさき
 鶉のさきも 鶉のさき
 鶉のさきも 鶉のさき
 鶉のさきも 鶉のさき
 鶉のさきも 鶉のさき
 鶉のさきも 鶉のさき

貸僕 夏曉 葵太 吐月 音羅 曉河 葛三 護物 漫々 紫女

寐積

初夢

初爰を帯て酒のむむと

允堂

ちつ爰の旅痛カ枕も志ら

技車

初爰やさくそ扇く

女子依

仕合く纏ををく

曹三

くぬ衣の昔もろや

其芳

書初又史邦ハ漢先

今彦

初す

志彦

初す

鯉尺

初す

斗入

初す

雪雄

門松

蓬萊

喰積

何業院カ妹くむく

孝丁

来る年の庭木は深

石芝

くくく世とる久

曉河

蓬萊葉の初人

素龍

くはくめゆ家

玉蓬

くはくめゆ家

亀六

喰つてや涙の

畔鶴

くはくめゆ家

柳儿

立喰の喰つて

冥多

穂俵

ぐいしはくもかくく漢の船世帯
 穂さうくや芒の芽月六波も来て
 古々のるむれ自れやほんくく
 ちげくやちまくくくく老の杖
 ち笑の癖くくくくや草はくく
 ちげくのかくめはん新を録
 ち羽子や月の中より落るまで
 羽子板をやくくく雪の舞山家
 ちくくくくの子のくくくくんよすくくあ
 くの人の帯りかしくく羽子のあふ

梅壽
 乙二
 護物
 完来
 蒼乳
 下住
 蓼太
 乙二
 寒松
 乙化

太箸

羽子板

萬歳

傀儡師

羽子板よりゆくくくくくくくくく
 万葉の持りくくくくくく日く
 暁をくくく万葉の扇うく
 万葉のくくくくくくくくく
 美果のくくくくくくくくく
 万葉のくくくくくくくくく
 虫をくくくくくくくくく
 ち次郎もくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくく
 大津路の昔くくくくくく

何免
 緩皮
 ちよ女
 樂水
 豊女
 護物
 吐月
 一肖
 三波
 渡風

オニ集

猿曳

猿引のササキハ形もさう

浦人

粗公や多知の半飼うしと云

ノ且

猿分や杖つく轂も君のそ

石芝

若年おつふけうも猿の時区

護物

子日

子引とむしううや子日の中

春鴻

小多ふく門も中一のふ日区

乙二

雪消ぬまうとつら子りや

方明

きりの葉もよおれ松も子日か

梅壽

小招引

先う才や杖むきけ小多引

樽衣

五ヶ日ハ植ていふう小招引

白尼

後ひとそカカソおれ小ま引

可都屋

かきいらおれおれおれおれ

護物

人日

象唐か人の日おれおれ

吳山

人の日やふかく睡る神の馬

嵐丈

むとの日やか立傾きて伊勢系

亀取

日六位の烏帽もか人の日おれ

玉珂

七種

粥くさのりく一色ハモウ

佛仙

七種の六日ハ九月の板も

士朗

七くさの唱もさけらわと男

白養

かきくけの打揃もさう田舎

鶯卵

養父入

人やむ飾焚あるいそ山田
かきもきて花水鶴も衣履も
かへ蝶も出もめてもく飾
出父入も枕り返りもよを
や娘入やそくえゆるちり
敷入やけり懸りもく連の
昔父入や幼ころの山川ら
やふもみのみく寝も菜飯か
ふに女や糸をきくもあは
うち水もよけく通るやあは

馬中
江戸
雪人
黙翁
白雄
万和
木榮
土卵
魚つ
蕪村
重厚

御忌

春寒

待まらぬ暖かかきあは七日
旅衣恥つてあはなきなり
土の筆はむ新筆さけあはの積
母のゆる晴月七日のまきそ
星かき川水田もあはき
果もやき後の東市やまき
や物もまきくあはき
あはの不性もあは余も
まきのあはあはあはの
土新も胡粉のまき余も

外六
午心
魚成
乙二
雪堂
三磨
壺羊
漣綺
喬駟
道隣

余寒

尻まきふるや余まのり 燗 玄蛙

泥亀の白よりさたる余まより 女李江

春雪 去の雪女のすそより 降しきゆる 長翠

消るるもくつらや 去のり 雪 平角

老朽のくせよのよおそく流の雪 白養

月よあつらけもくつら くるの屋 女 ちの丸

あのをくつら 流やのよおそく 政二

冷雪 何のやや言もえ流の屑牛房 くらひ

流まの押むらけくつら せ山のち 新雪

残雪

流雪は吹草の風は居さく 何龍

消るるれ雪もかよふ子 流る水 士朗

流雪やまよふ山を 流る水 五明

流るるや雪の流るる 流る水 百嬰

流るるや雪の流るる 流る水 獲物

雪解

白波とあつらけ 破のやまねを 蘭更

雪とけのよ念まおそく 山流る 杉長

流るるや水を雪解の力り 義香

駒之き野の目もく 雪解川 平歡

山とけや雪の上を 流る水 女のけ

抄
三
卷
上

夕霞

をく牛の燈をわたりやも影むを
能く穴を勢いさる日やハミよ
並ふものハ時まゝとくよ影むを
うののあり翌を夜屋き夕霞
夕々すいゆゝと影むをかす縁々
流き霞ふきくや影の夕々る
余心のかの二度から日や夕々すい
ふゝものまもる影む夕々る
ゆふゆふゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
いゝいゝいゝいゝいゝいゝいゝ

南井
江戸
虚舟
焚渡
樗堂
丘高
布席
梅價
芳居
胡準
梅史

東風

春風

あつ降くも越後の雪り東風自
浦里や東風よまきつゝ麦の心
初あゆめゆきゆきゆきゆきゆき
とたきも果なき乃の却り
まゆ風や吹て霞くも霞の角
春ゆきよゆきゆきゆきゆき
親あまも家路もちりりりりりり
はるゆきや麻子蹴らまゝ一羽の元
てゆきゆきゆきゆきゆきゆき
福あまもまきよまきよまきよ

曉河
栄技
護物
松井
岱音
嵐外
風芝
素玩
太無
大江丸

福壽州

豊
玉
集
上

十二

梅

又しつとやこそのむの福喜叶
 福来草花もくくん廿日
 山以ふまこふふくやふふ
 家宿も梅の世もよはくく
 之日かこまこくくく梅の
 花意ははくくめく梅くく
 くかこくや畑井のさこの梅く
 山梅の夢もくく日く
 能かこく寐ぬくく梅の月
 横よ這てく梅の月

首三
 雨塘
 雪雄
 白居
 踏夫
 守豊
 菊嶋
 子信
 音羅
 斗入

梅月

散梅

中すれおきく梅の月車
 夜おひつゆをくく先を標の月
 家宿も戸口の梅くく夜
 花くく梅くくあつる
 梅のむくくくくくく
 ちくくく白梅の小家く
 梅くくや馬のくく入る
 山やささの梅くくく
 くくく西をくくく柳く
 くくく旅をくく柳く

素龍
 太節彦
 雲帯
 樗堂
 篤老
 梨翁
 存阿
 應
 不寔
 瘦菊

柳

木芽

噴くそ門先出るや春の也
春の也そ春の也そ春の也
相の芽は花の——一芽の枝は似ん
日の入ぬむうの春のむく木芽
力のひるぬ白の枝はそ木芽時
合致の芽はあひの芽はそ木芽時
木芽の——はそ持——はそ時
ワケ竹や春の芽はそ木芽時
そ春の也そ春の也そ春の也
そ春の也そ春の也そ春の也

踏雪
石芝
春芽
一蕙
白羊
隣松
樂水
遅竹
巢兆
さし雄

若草

春草

春草のそ春の也そ春の也
そ春の也そ春の也そ春の也
年よれそ春の也そ春の也
線糸のそ春の也そ春の也
山糸のそ春の也そ春の也
下草のそ春の也そ春の也
下草のそ春の也そ春の也
下草のそ春の也そ春の也
草のそ春の也そ春の也
草のそ春の也そ春の也

曉屋
乙二
寄洲
鶯笠
ちり
春樹
竹馬
草夫
乙二
星譜

下萌

草萌

百子鳥

當り似る似ぬ多しよ百子鳥

士朗

花の里は當りすのり小里く如

標堂

羽も似ぬ當りしものも是る

保吉

新色も似ぬ當りしものも是る

花笠

當りや山家のまゝの何れも

魯吟

くらひまよふかゝるのやまなく小家

瓜坊

當りや山家のまゝの何れも

万和

當りや山家のまゝの何れも

蟹守

當りや山家のまゝの何れも

古良夫

まうた

鶯

雲雀

ふりやわな雁も似る二人連

春鴻

ふりやわな雁も似る二人連

ノ旦

雨のりも一度は何れも

可厚

兔角も似る系も似る扱も雀

瘦菊

風も似る系も似る扱も雀

石芝

駒鳥

駒鳥や峰も似る雪も似る

柳居

駒鳥や駒鳥も似る松も似る

保吉

立旗も似る借も似る駒鳥の姿

栄枝

山伏も似る後つきも似る駒鳥の姿

雪彦

駒鳥も似るやまのまゝ葉のまゝ梢

獲物

鸞鳥

うそつゆや舞ハ破きく夜つ
 夢かろや木くろ水そむる梅窓
 野のふもかまろ人夢のあ
 うそつゆお畑そつれの五年桐
 夢かろや舞のつろの 鼓と川日
 されそを猫も恵のむく月
 春の自然私を白く移るの恵
 夢かろや舞あそくさくしう王
 けおひくろよ火の影猫
 猫の書せ蘇くくく影もさん

圖南
 倉原
 蒼虬
 阿さ
 さら雄
 士朗
 可於里
 ノ且
 岳輪
 輪之

猫戀

白魚

白魚のすくくはくくてき案
 白魚の世をぬくくく眼の思
 志く魚ハ水のぬくひう若ゆり
 志く魚ハ水のぬくひう若ゆり
 志く魚の目とてふくくか
 むるるハ相のくふくく志くく
 湖を 歌よもちたり 蛇く
 土たり任はくくくか
 中あやてれ情ふくすね黄の
 福くくはくくか
 女
 子代

成美
 蘭更
 玉光
 美じ
 竹里
 昆明
 溜翠
 壺羊
 子代

海苔

海苔を炙く鷗くくしちちちち
菴の夜ハ海苔火とくを文より
透とをるやふふは海苔の中
くさか、ハ海苔をかきく房の垣

乙二
升六
達三
草史

二月

花子は多き子はけききき二月は
やう本の曇るハすく二月は
舟唄の瘦るくあきく二月は
ふふふふふふのほほぬ二月は
畑くくくく二月の林麓の菊

葵亭
一月
吟系
卓老
鶯笠

衣更着

さほくさやうへも解ハ袴の垣
衣更着ややもゆる家のかきかき
まきくおやをまきくはく小高ハ
子はくまは日のまきく 枳殻垣
衣更着のまきくやいっつ 立子も

子言
東鶴
壺羊
菊守
梅史

初午

く川午やもの程くくく日のあきる
初午や花をそはく 館の麦
く川午や江戸くくくくく
初午くくくくく寺ワク
く川午や幸の田井り乾く霄

蕪村
芳之
鵬翁
梅寿
胡凜

事納

便取もさよく成やるりおさ先

今彦

常も取くろりりの小豆粥

素共

馬部取もさり立りり事納

護物

薪能

芝能の火けさるよや町さるき

仕侯

芝能や用ふるさるあり二人あて

林下

考代又立りり能りさるさるい

琴亮

せ能やぬきさあさる様の上

貯江

浮槃

涅槃さるやあさるいりりいりり

月化

禰人さる世のちりりりりりりり

巢兆

涅槃さるや時月さるあめりりり

李竹

彼岸

涅槃像大さるいりりりりりりり

知龍

いりりりりりりりりりりりりり

藏六

あ梅いりりりりりりりりりりり

大江丸

うれさるりりりりりりりりりり

万和

柴の戸能苗主は彼岸の入りりり

蓬山

小奥はる梅ぬりりりりりりりり

龜山

新るりりりりりりりりりりりり

孤山

西行忌

うれさるりりりりりりりりりり

菊也

青柳や月も佛も十五日

蘿文

うれさるりりりりりりりりりり

寿翁

撰玉集也

六

よや世の杖さるあそむこの夕

曲阿

いのちしるふく小夜の茅花餅

輪之

水口祭

隣る並の水口おれ畑とら

ちり夜

あやうりや水口むらふ日くけ菅

護物

二日灸

新りもあそぬ旅宿よ二日灸

升六

二日灸牛の体さハ休けもの

五由

清きるを二日灸く一火く

長羽

二日灸く中野田又一火は

輪之

二日灸角力く川くも胃く

菜山

出代

出代の馬くものりくく

五明

出代やかきくく大用炒裏

梨翁

寺所や蕪植あよ出代寸

ちり夜

出代くくく門くく

金菜

貝寄風

貝よきよむかきよ破別

ちり夜

貝よきよのゆきよてやゆき

く周

貝よきよやらめハ常の衆原き

護物

鳳巾

切るやるんよあやいのち

曉臺

ね巾くけて常の夜の柱

士朗

父きよく集りね中のすい

梅價

川はよのきよいよきく

鷺洲

春日

菜畑の中はあもれ布のそ
 ろりのりや半まはれもよき松のそ
 春のりや菫花のりや苗のそ
 賤あふも縁子つれてのまき日向
 うささやまきの日け乃片おもて
 本峰きの拍子さうれまきりや
 片共さるるまきりさるの月
 いられさる水田のうへまきの月
 扱菜まむまきもあよ春の月
 葉あもれまきもあよまきの月

みるる
 葵亭
 也好
 李尺
 石光
 碩翁
 喜翁
 蒼虬
 其翠
 五石

春月

朧月

春の月うや白くて昇るまき
 摘みてさ日けりまきの月
 おほろ月光あふも有明ぬ
 長男けよ前も出さる月
 摘月いりり味味の盛るも
 有明もまきのあもれも摘るも
 摘あや蓋長むらう供まき
 おほろあや百姓町のかす一厨
 摘あや縮くくまきも
 湖へちまきもくけぬも

清素庵
 士朗
 草阜
 石雞
 輕舟
 普成
 月化
 みるる
 買月
 さち雄

朧夜

春夜

春の夜やさきさきけしき
春の夜乃らさきさきけしき
春の夜乃らさきさきけしき
春の夜乃らさきさきけしき
春の夜乃らさきさきけしき
春の夜乃らさきさきけしき
春の夜乃らさきさきけしき
春の夜乃らさきさきけしき
春の夜乃らさきさきけしき
春の夜乃らさきさきけしき

曉臺 葵亭 星譜 杜鵑 麻直 成美 雨塘 女子 和川 眞茹

春雨

春雨の夜やさきさきけしき
春雨の夜乃らさきさきけしき
春雨の夜乃らさきさきけしき
春雨の夜乃らさきさきけしき
春雨の夜乃らさきさきけしき
春雨の夜乃らさきさきけしき
春雨の夜乃らさきさきけしき
春雨の夜乃らさきさきけしき
春雨の夜乃らさきさきけしき
春雨の夜乃らさきさきけしき

來賀 每説 可來 五雲 定雅 白雄 碓嶺 雉扇 龜大 浣水

春山

春山の夜やさきさきけしき
春山の夜乃らさきさきけしき
春山の夜乃らさきさきけしき
春山の夜乃らさきさきけしき
春山の夜乃らさきさきけしき
春山の夜乃らさきさきけしき
春山の夜乃らさきさきけしき
春山の夜乃らさきさきけしき
春山の夜乃らさきさきけしき
春山の夜乃らさきさきけしき

山燒 山燒 山燒 山燒 山燒 山燒 山燒 山燒 山燒 山燒

焼野

志の先よ小る降出す焼野

葛村

川越てきのんて焼野

蘭更

草の戸はるをききおきて焼

葛三

春野

焼野のあもり四女日の名くら

碩布

まの野や砥のやふる花

みら貴

まの舟やまはら一は旅の

竹岐

ふゆるとやまをり人のま

旧友

春水

まの舟を疾まそ人のま

嵐土

まの舟を疾まそ人のま

月居

まの舟を疾まそ人のま

瑞馬

紅梅

引えくる芥の古根わら

雪雄

草まよ木まよや春の水

石蘭

懐より南へむやまはり

乙二

お梅よ孫よくるをけ

士朗

紅梅や家の目わりの根根川

斗入

お梅の佛くまもあう

成美

お梅や翌ささくもあ

芳之

お梅は歌よるまはる日

炉扇

お梅は歌よるまはる日

美吉彦

花まつわけそくく

葵亭

花待

五形花

物ゆくー代ゆくはのらんけふ

今更

里のけんけとせし津波の日もくも

梅壽

大根の葉もはやくーらんけ候

曉河

蒲公英

きん何や管提灯の下くく

春鴻

蒲公英や流ゆく人の里の春

今更

友人ほや一目もゆる茎もむ

乙二

藩之英やわむむなる多川日歌

世心

らんけの候や中の露山の松

石芝

薊

薊花を 藤よふもむ耕地に

瘦菊

さくると口のなる 薊やふ

桃坡

薊花

やうーしや根もさして薊もぬく

可都里

泣ぬ子あゝいゝも連んぬ薊も

月居

山雀もくく度々の薊もふ

孤山

はくろ病猫の目細ー死つゝふ

曉河

薊花ぬらんたのうけゆるまよく

碓嶺

薊芽

ゆうこのけうはまむうの角

蒨笠

薊の芽は小ふくや一壺

今更

一ふーのさきもふーや薊の角

壺羊

ちひさくしていゝも何や薊の角

露壺

薊の芽や舟もく福もくものほく

石芝

五形花

六

葭子

北山の古池や葭子く

夕暮

篠子

葭子折て篠もまらや女房を

六倉

篠子

すのゝやけ一川ハ盡さ

秋挙

篠子ぬくまきこをく一嫁の若

夕暮

さくお子や伏屋のまら一夜は

護物

接穂

庭中まの酒む接穂か

白雄

はき穂きよと新く起す雀と

羅風

はる良子のゆふ提らぬ一接か

素迪

春雪くまぬ接穂の葉のま

窓雨

つさなるう大木かぬ植と

荷乙

指木

はしあし子らの新く

蒸水

指木く物も深さ大山

碓嶺

菜花

菜の葉ね二日はまのさ

挂五

菜のむや煤の古家納く

烏翠

あのみやうらてくさく月

對雪

甘菜のむよ味まら目白く

表丁

たのむや小ねさく

草均

活ち根をきて花の咲く

東圃

押曲は家もまら大根さ

女
ち記

くさのやうさく

茅磨

薺花

乙二 乙二 乙二 乙二 乙二 乙二 乙二 乙二 乙二 乙二

五加木

梅價 杜蓼 一肖

杓杞

九霍 馬雪 政二 恒九

蒜

...

蘇蕪

...

摘草

...

畑打

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

抄三集上

...

朝鷹

月よとて建一橋を渡る 泊るは
朝鷹を毛をくしつる上
朝鷹や見くつるの如くむく

護物

五橋

之化

雉子

書よと一夜は雉子の山より
立しつれあふのうきよ雉子の
終さしのも葉をかきけけ鳴
阿ふきはふんのゆき雉子うね
鳴雉子の村戸もゆき 茶飯
さくはしとすきとを根ちんきの
春くはしとら向ふかくまの丁

曉臺

岳路

方馬

風芝

都久母

春鴻

奥堂

春雁

帰雁

帰る日の何よきはり子とあり
ワの信よおけを望ゆく 門の原
一序立て休てある 汀の原
舟の葉やち合しと一序つ
一羽はまきと雁しとくは原の
浦島つ物しと信よとくは丁
帰る丁書かすけある 舟もせん
小田よあるもくもくハ鴨うね
川鴨や船風はく舟のち
曳うもの系葉えん 米田いぶ

守豊

女子信

騾道

霞外

曉河

可良

有莪

乙二

胡準

東鶴

曳鴨

抄五集上

引鶴

若草木の風をきく鴨の連なり
枯るまゝの病をよ鴨の連なり
才のふもまゝに鴨のふみり
厚むとのまゝに鴨のむく
空か一まゝのまゝに鶴のまげ
引まゝのまゝに鴨のむく
引おひまゝのまゝに鴨のむく
乙鳥のまゝに鴨のむく
ほろろのまゝに鴨のむく
乙鳥のまゝに鴨のむく

女
ちんせ
護物
笛子
竹児
野江
涼氏
玉光
蓼太
士朗
頼来

乙鳥

鳥交

鳥巢

乙鳥のまゝに巢かき古火桶
小鳥のまゝに巢かき古火桶
乙鳥のまゝに巢かき古火桶
乙鳥のまゝに巢かき古火桶
乙鳥のまゝに巢かき古火桶
乙鳥のまゝに巢かき古火桶
乙鳥のまゝに巢かき古火桶
乙鳥のまゝに巢かき古火桶
乙鳥のまゝに巢かき古火桶
乙鳥のまゝに巢かき古火桶

嵐丈
石芝
みちる
右雄
守三
厄印
關更
乙因
葛三
徐覺

春鳥

初春の鳥の巣をうさくそまきの園 西塘

春鳥

梅ちりねも春もさや川系結 みる

淡柳の芽や門をを頼赤花 李長

赤色く又列をさくそまきの鳥 静山

鳥轉

啾々そまきをさくそまきの鳥 芳之

新けりや鶯もさくそまきの鳥 根菘

木の風をさくそまきの鳥 文兆

鶯の雨もさくそまきの鳥 枇儿

雀子

雀子の雨もさくそまきの鳥 百明

雀子の雨もさくそまきの鳥 由都苗

初蝶

子をもさくそまきの鳥 乙二

雀子の雨もさくそまきの鳥 木海

巢雀よさくそまきの鳥 伊扇

く川蝶のちもさくそまきの鳥 白雄

初春の鳥をさくそまきの鳥 得雨

く川蝶のちもさくそまきの鳥 志け

初春の鳥をさくそまきの鳥 みる

初春の鳥をさくそまきの鳥 濱菜

初春の鳥をさくそまきの鳥 佛仙

初春の鳥をさくそまきの鳥 北冥

豊公集二

蜂

香の蜂はつらつく茶一葉の如
 花よりのつひそまきこころ
 大風のやく後を出入る胡蝶の如
 蜂の巣も人よりのめを刺す蜂の
 くららの巣は何不足なくゆるく
 三日月や花は蜂のくらくら
 菫の少厚はよくたつ蜂の
 巣は蜂の親子くらくら出入り
 かいらまきと蜂はくらくら
 雲雀笛よりくらくら蜂の

呂律
 李峰
 石芝
 白雄
 雨塘
 百嬰
 蘿道
 護物
 けん光
 玉光

鮫

鮫子

くら子の牛は嗅く家けけ
 蛙子やてる日と水のむつり
 蛙子もおあまらくくまへ
 鳥よる宿世はかきやく子の
 久保子のちくくはあま水子
 月夜の夜よきし出る蛙うね
 ふむササの白くくく啼く蛙
 山吹を植くくくく蛙うね
 玉よその毛もくくく蛙うね
 くら子の葉田はくく蛙うね

葛三
 月化
 可磨
 芳居
 石芝
 可都里
 乙二
 袁丁
 故園
 陶里

蛙

草

ぬきまの門まの草をす夜す
 義香
 草かきや膏の小笈のさくら
 緒
 草をかきん科の笈のさくら
 護物
 物着のかさるるをけや暮のさくら
 女
 蛇も穴出ししつうとさくら
 孤山
 蛇も穴出るま山暮いろ久き
 松飲
 蛇穴を出るや通草も花の咲
 黙翁
 田よりく起て移るる孫をかくら
 松兄
 耕さハたもたらう啼田螺
 博雄

蛇入穴

田螺

西りの杖乃りりし啼田螺 真澄
 中川ぬり戸まをりや啼田螺 九十九
 草鞍の毎るる川かく田螺 曉河
 よふの角つめあさるる日暮 古玄
 小者くうおとるる和布介 魯挺

三月

三月や酒と研んをくの酒 政二
 三月の用もさるる井 雪堂
 三月のさるるをさるるや茶たさ 笛法
 三月や枝きりする人のき 澤芦

弥生

鶯の聲の響くは 弥生

葛三

よきかゝの雨や 弥生の木もさう

季東

花の到る 横たふは 弥生

卓池

鶴のさす 蔓草は 弥生

さち雄

杉杉の雪は 押さへ 弥生

素水

上巳

白くも や 流るる 志 弥生

白雄

旅人の 枕おろも つ 昔 白く

樗堂

枕のりや 馬より 先を 枕おろ

葛三

枕のりや 松は ぬ人の 左

森樟

鶏合

鶏合 眼も ぬ人の 左

曉臺

勝勢の 木も 志 川 合

瑞馬

から 鶏の 抱く ぬ人の 左

竹児

履さの 砂 ぬ人の 左

午心

曲も や ぬ人の 左

撲水

曲水

曲も や ぬ人の 左

柳儿

曲も や 芦の 森 色子 出

寥松

曲も や ぬ人の 左

茶静

曲も や 白髪 ぬ人の 左

泠水

離

小煙の 秋 産け ぬ人の 左

吾衣

終るも ぬ人の 左

眞々

草の戸も障をりもてを能の居
 をいりも尺ぬ世よ来一能くね
 雑立く秋くくくや小豆を
 百くくく小室をえくは沙予が
 ねのちくくくみの沙予もさるぬ屋
 新ちくくく下くは沙予のく口く
 法く人くくくも沙予をねく日く
 常く子の能まけくく沙予くく
 間のぬくく行日ハ伸くくく五生急仏
 懸つく男も出くくく五生急佛

沙予
 成美
 蒼乳
 鹿古
 雉扇
 芳居
 野揚
 竹見

壬生急佛

峰入
 峰入や茶まかくくくたつくくく
 峰くくくく山くくくくくくく
 峰入や能くくく見かか人くく
 み福入や喜のくくくぬきの上
 炉を寒くく疎くくくくはくく
 炉を寒くく有梳子くくくくく
 炉寒くく僕もかくくく山の井戸
 ぐくぐのやねくくく仍くくくく
 まくくのやね抑のやめくくくく

如山
 白雄
 月化
 儿卜
 耕雲
 其梁
 嵐吹
 護物
 葛三
 惠編

春霜

別霜

厚く厚く吹くはよ成ぬりし水 霜

白雄

笑みの涙の痕つゝおやあを

可磨

せねも初々をそくりぬまも

黙

川水の毛も初々よ別ま家

山松

麻壇の床白法まふーあを

東鶴

永日

永き日や帆影のまふ巡る標

呉亮

あをのり日永きまや組の上

守豊

かき日や砂ま波つ川るの流

涼濤

あをりや市中あましく了葉搔

桃生

なつる日の情や波まゆるの以

女 ちる

遅日

奥抄やまき日けの弱むり

櫻堂

船木伐とまふ人まき日けふ

全長

樹の舞る障るまきまき

護物

いさくくまき鴨起まきり

長翠

足もりの夜ぬハまき春のあ

葛三

まきの痕よまきハまきのあ

羅外

よせくはは浮草あも芽をまき海

竹夫

花のあもむまきハまき日陰

首三

後ろ眼もあまきハまきあ

玉珂

山海まきまきのりまき

芳居

花

春海

豊三

人あや花何さ山の彦月夜

禹門

あーささくもさへきぬ花さ

護物

花雲

田のさよわさうおや花のさ

柳居

白雪を足るさふさのあささ

士朗

山はりよく定まらるものを

可都里

花曇

花をささく月さ花曇るさ

樗堂

曇るさおふい花のほろ日る

輪之

花雨

花よ雨さ綿くささるるの中

重厚

あささるもたさささあさやあのを

葛三

人あささ雨さささあさるる

可翠

花雪

引さる雨さささやとあさる

洪石

花の雪ふさほさささ夜は似る

乙二

大の子のねもさささんささ雪

玉光

花見

雨さささささささあささ

完未

雪ささささささささささ

夕暮

書あさささささささささ

尼
星市

わのさささささささささ

松兄

旅人さあさささささささ

卓池

花守

花守の折らささささささ

音蘿

歌集

巻

遅櫻

不^レもぬやとむい^レハ^レも櫻
 山^レふ^レ一^レ旁^レ子^レぬ^レは^レも櫻
 庭^レを^レく^レサ^レり^レと^レれ^レカ^レキ^レの^レ花^レ
 引^レく^レ守^レま^レり^レと^レろ^レや^レも櫻
 井^レの^レ水^レを^レく^レり^レと^レ来^レて^レ庭^レ櫻
 あ^レい^レむ^レけ^レも^レも^レつ^レや^レお^レも櫻
 ち^レも^レけ^レく^レ雪^レの^レあ^レま^レも^レ満^レち^レよ
 ち^レも^レや^レ櫻^レ二^レ口^レの^レ月^レの^レ影^レ 昂^レ
 坂^レと^レや^レぬ^レの^レう^レ一^レて^レさ^レら^レも^レな
 ち^レも^レも^レの^レけ^レく^レも^レ砂^レよ^レり^レ上^レ
 逸翁 月居 奇洞 化龍 不木 岩甲 奇彦 北賀 鳥流 豊女

散櫻

桃

梨子花

云^レる^レふ^レ付^レて^レけ^レく^レの^レ散^レり^レり^レ
 山^レの^レ花^レの^レ形^レて^レ類^レ白^レと^レ桃^レう^レく^レ
 芳^レあ^レも^レう^レけ^レて^レぬ^レ枕^レの^レむ^レり^レ家
 淺^レへ^レハ^レま^レも^レい^レほ^レも^レや^レ枕^レの^レ花
 若^レく^レ焼^レて^レ焼^レけ^レま^レい^レも^レも^レの^レ毛
 井^レふ^レか^レも^レお^レて^レら^レぬ^レり^レ枕^レの^レ茶
 う^レれ^レ家^レや^レ梨^レ子^レ一^レ本^レの^レ花^レり^レと
 毛^レも^レの^レ毛^レ白^レさ^レる^レ日^レを^レち^レも^レふ^レり^レ
 か^レの^レ毛^レ後^レの^レふ^レら^レも^レも^レう^レ来^レる
 毛^レも^レさ^レく^レや^レ雪^レの^レ影^レの^レ面^レも^レも^レ
 笑九 耳谷 芝得 是翠 多代 石芝 闌更 月化 月露 利雪

海棠

山吹子のむすぶさ海棠家	胡筆
海棠のよきとほりて直のる	屋烏
海棠やせらへ安さるのえ	五明
海棠よ虫をけりあきけうち	みら夜
海棠より初るるるるるる	岱松
海棠よ子の何くせや養者昔	文貫
雪の結てるさけしや本所の花	露堂
雪よこえて本所よけうるさ山吹	輪之
本所の氣渡の夕々色志とけふさ	太良彦
おとらぬや本所も中しく人をさす	みら夜

木所花

山吹

指次り門をたつし本所小堂	冷水
山吹の泥まぶるのも並々形	巢兆
屋まよまや人の庭け昼下り	表丁
山吹をけり向ふ依家や	行馬
山吹をけりハ市よけりちうち	石芝
山吹や親子かしの渡りち	篤光
夕うけや水の底をけりし山	奇峰
植りけりし山吹や隣り山の苗主	百慈
はしりてふかき矢ひぬ小枕	素共
はしりてけり母ふき清の子	女 まう

躑躅

藤

紫垣やはら〜ふは〜小銭のそ
 花はひ〜こき枕も似ぬや夏の花
 福〜〜〜〜藤の山後より
 住屋けか家も〜の〜夏の菊
 矢折ひの袴み〜〜〜ふらのむ
 通る日か〜〜〜藤の花
 濱の暮の〜藤の緑〜〜〜
 袖は〜〜〜春の雪やあき〜
 雪の〜〜〜小田は名は〜や輝〜
 雪の〜〜〜〜〜〜〜

竹馬
 可翠
 士井
 子信
 護物
 女
 雪彦
 柏早

馬酔木

草

小草〜〜〜
 この〜〜〜
 月〜〜〜
 こ〜〜〜
 終の〜〜〜
 夏年の〜〜〜
 恒程〜〜〜
 古〜〜〜
 月〜〜〜
 月〜〜〜

寒崖
 曉河
 北賀
 女
 ち〜
 嵐丈
 無説
 碓嶺
 太良彦
 白雄
 吾彦

母子草

萍初生

葱花

鳥ともしうたひのしるし水草生
冷月のまじりの花の影の花
了福ん障りもすまて葱の花
牛蠅の出てくる脊戸や葱の花
よと出く又移しや三月菜
く入望に掃屋くくく三月菜
粒くくや草のまじりの三月菜
まき麦や佃くくく無の家
草まや後を引くく太の祝
まき麦や佃くくくく山の鳥

護物
太良彦
雪彦
栄枝
燕村
柳凡
炉扇
其真
古玄
一月

三月菜

音麥

茶摘

岸焼の書あかまけ茶摘
柿のあま瓢箪まけ茶摘
はむはむ茶のあまむむむむむ
は家くち出てまけ茶摘
山菜はむむむ子持の寺這入
茶摘くし肩まけ茶摘
くくく茶摘くくく茶摘
漬茶やまのく肩のくくく
くくくくくくくくくくくく
呼子鳥 朝日ハくくくくく

三省
竹芝
一瓢
南井
護物
菜兆
壺羊
植伏家
光浪
挑波

鳥入雲

鳥入雲 春の川邊やきよき
 多きま入る竹木の光うけ
 多きま就も松じやちうく
 多き雪まよるたりや固扇は
 一のしよせま入るる名を
 畑も志しぬ多きま麦 鶉
 けうくしよて海うり麦うり
 雨とよふ方荒か 麦 鶉
 むきふまは波うりも流き小鮎や
 けう鮎やちうくまきる風り波

曉臺 蘭更 竹馬 美山 さら雄 左一 雪蓮 鷄六 耳谷 子雄

蛤

鯉

蚕

一ちかき小鮎のなる雷り者
 鮎くく片足くける獲か
 おくやくねんくもぬ小鮎や
 くはくまのくはくする下溜か
 蛤り日くくあつちかきりく
 蛤くはめくくつちかきりく
 馬刀貝の陰まくくかか力か
 順いかくまはくくく刀柄ひ
 る刀貝や糸母りまは淡りまき
 扇くくまき旅席のまや蚕飼柄

可成 浮舟 樂水 蘭更 青川 素郷 白雄 玉光 盤布 宗讚

方布の袂よなるる葉子、取

關更

帝香くくくや人の世に連き

魚丈

て家よ、まどはく、や、旅、鳥

可磨

燈をむくて、足並は香のそくちが

南汀

暮春

春々水々くくく、鯛、あ、く、く

重厚

紫陽をま、く、く、く、く、く、く、く、く

眉山

は、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

葛三

勢、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

芳居

知る人のく、く、く、く、く、く、く、く

太良彦

行春

ゆく春、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

音羅

春が、く、く、く、く、く、く、く、く

月居

ひ、く、く、く、く、く、く、く、く

存阿

ね、く、く、く、く、く、く、く、く

百二

ゆく春を、く、く、く、く、く、く、く、く

鶏籠

[Faint, illegible text in a large rectangular frame]

俳諧搜玉集卷之二

田喜莖護物輯

○復之部

立夏

たけなや木屋掃除のけしき

空彦

なごのや榎さうりなすしんち

瘦菊

初夏の焼酎くらきとさくらね

芳居

なごのや寝床をよほすにきり宿

草夫

四月

ふそそきと樹くさうさく四月

沉流

雪のふりぬけゆく四月

由都苗

より火のたぎるくさく四月

無長

雙三集

四六

卯月

箔うちろ宿ハ小くき四月少
 四月の一志つまうや柏ち流
 草白ふ卯月も春心漢村少
 花雪の卯月曇や積り唱
 〜〜〜つりろ卯月影山行多
 必ま〜卯月のさくら系花子
 九日のほ〜志くひ〜卯月少
 春す〜れ〜つも月夜ま志てけし
 春す〜色暁さ〜い〜やふ
 春す〜山を〜れ〜思ひ〜

杉長
 夢南
 澧水
 平雄
 輪雪
 關更
 乙因
 月居
 南井

青簾

更衣

綿拔

青簾〜〜小く撮〜ぬ〜ウの月
 春す〜積志〜〜風の吹くも
 翌志〜ぬ身〜して衣〜え〜り〜
 山〜や〜情〜は〜き〜て〜衣〜り〜え
 長明〜宿〜まで〜え〜〜更衣
 林〜を〜る〜春〜〜〜衣〜り〜え
 春〜く〜せ〜の〜身〜思〜〜や〜衣
 〜〜〜ぬ〜や〜春〜の〜日〜や〜積
 〜〜〜拔〜や〜花〜の〜も〜昔〜年〜志〜ひ〜拵
 綿〜ぬ〜き〜や〜春〜の〜さ〜ら〜の〜ま〜白〜拵

昭眉
 路一
 佛仙
 巢兆
 月居
 寒拵
 可厚
 荷乙
 栄枝
 箕音

裕

巾の毛一記矢敷のまけゆきせ、
 何れぬ日や味林妻よ果の裕
 忌すまして人ゆいしるふ裕か
 鯨くつゝ男の多き裕く時
 かつをるを弄むのかきも也
 色も多し初く昔や夏くつも
 松の若るきり七日くをほし
 折く八月もぬく日傘と
 本もよらるるをぬ日くつは
 下もや戸口よあまる日か

蕪村
 冬彦
 秋拳
 素撲
 首三
 九朴
 みと彦
 如耕
 清風
 文砂

夏衣

日傘

扇

團扇

ゆいさハもの書よゆるあめ
 ねくものやふもふ扇の春
 川舟よ四舟本志ゆき扇と
 かてしものもかき扇うか
 劍積もきつよかき扇うか
 まいしきハ男の故をく扇と
 彩らしきもちり持りくさ枕
 法々仲の答をあらん扇と
 家ほくの茶扇とけや扇と
 ちほくもふらと大きく扇と

春鴻
 香牛
 塊翁
 莊二
 光人
 成美
 文兆
 桂五
 鳥頂
 千崖

灌佛

大色教仏の窟とわたりぬり
 青雲の撮へんをろくく大色教
 灌仏やわくく建一堂のあ
 羊くくまされて無量事あゆか
 浴仏の雲も交り夜明り形
 侍仏のせしれくくく夜の味
 いせの雲もまくと色仏生舎
 日ゆくくくくくくくくくくく
 といやとくくくくくくくくく
 叶くくくくくくくくくくく

孤竜
 招柳
 保吉
 素因
 升六
 太節
 護物
 赤男
 梅堂
 長翠

花御堂

夏籠

夏書

昼寐

夏よりんふかすれのまきくく
 夏籠やとくくくくくくくく
 夏籠の日記もくくくくく
 朝をくくくくくくくくく
 新波ゆのむくくくくくく
 夏まらきんはくくくくくく
 寸法事の曲もくくくくく
 夏まらくくくくくくくく
 蓋の何く井の水汲くくく
 昼ら寐もくくくくくくく

みろ彦
 葛三
 冷水
 護物
 二柳
 乙二
 其架
 光浪
 杜流
 保吉

短夜

馬かゝやまゝ床起ふくハワ下
昼寐をハあしぬはしや寝惚
筆を鼻下してさきそむる床
くく夜や人まゝくく解の穴
経書やあし寝惚る招穀極
みくくあの小くくきくく栴の月
短夜のきくくあきくく菴の角
くく束の畑もはくくや枝の道
明安く明く雨もつ塔山うか
明やもき夜ハ来く帆ヶけ紅

吾彦
政之
東陽
完来
万和
掉歌
宗巴
茅唐
春鴻
豊女

明安夜

夏夜

草のあけ家まゝくくあそ明安が
雨くくかかき夜くく云くく明やそ花
明安く夜を赤子なく裏あさ
まゝ夏夜の夜ハくくものを波の身
ちくくいとあそ夏の夜汐のくくく
夏の夜や系色をまゝぬ家かかき
夏の夜やまゝあそあぬ人かき
追出くく雉子啼きん夏の月
くかり出く月夜のくく門の夏

五繩
一蕙
亭馬
菊也
以木
麻彦
葛三
玉珂
友國
素籠

夏月

草の戸やおりのよきさる夏の日	雄扇
温泉の山に疑を移して夏の月	東園
掃切のちびの産し夏の日	里外
夏山のうけちをぬくものか	武陵
あつ山や袂をさす火お	菊所
夏山やうはほむわの家のゆ	壺羊
夏えくや只ぬき色の山と山	加浪
夏山や雨よきをさす	玉光
夏川を越す橋のよき家	蕪村
あつ川や荒るえをゆく女	蘭更

夏山

夏川

夏川よあつ川より三日の月	未粧
あつ川やニウハあきありのん	木海
夏川やささささささささ	糸遊 <small>女</small>
卯花ささぬや垣の帯	蒼此
うのむや雪折の帯はつり	推己
卯の帯り比も火を焚く家	なほ心 <small>サ</small>
卯の花も夏をさすや物ゆ	茨市
うのむや帯はぬくは百姓家	菊後
花々の山里よさる	保吉
夏院の井戸はらる	嵐水

卯花

桐花

搔花

さくらさくらの花よむしとや神子う袖

文貫

北辰のうけを散りしと好し橋

光浪

空ももろき世先くや橋さく

百羅

若葉

水んまを尻子折るくわ葉うを

芽磨

山さのわ葉よほき月日く水

貞秀

片さやう葉ううくくあく翳

五陵

月焼くそも夜んをむくわく

芳例

つ守り椿くきあるわ葉う

護物

青梅

まき梅や朝のきくくは井尊

来石

青梅やあまてくくくを教を交

走け

櫻實

まき梅や内庭くくくは羊馬

菊後

まき梅や人を通さぬ堀さく

可磨

船玉の歩酒泡くくは梅実を心

竹馬

心并くく昔かくくさくくの實

存何

実はくくや何くくくぬ山の家

長水

はくくの實踏て出くく附子く

和翠

茶をわくく涙の玉くくくの實

輪之

葉櫻

葉さくくや岸やくまあるぬま机

みち彦

葉はくくの言くくのくくはさく

茶静

たまぐくや南吹口の吹くくく

宣彦

葉柳 玉光

葉柳 やらうく 西日け 岩翠

葉柳 やらうく 西日け 玉光

葉柳 やらうく 西日け 清素志

葉柳 やらうく 西日け 竹見

葉柳 やらうく 西日け 光浪

葉柳 やらうく 西日け 林糸

葉柳 やらうく 西日け みち夜

葉柳 やらうく 西日け 扇和

葉柳 やらうく 西日け 東陽

若楓

若楓 まらも ちりも ぬき色 扇和 東陽

若楓 まらも ちりも ぬき色 林糸

若楓 まらも ちりも ぬき色 光浪

若楓 まらも ちりも ぬき色 竹見

若楓 まらも ちりも ぬき色 清素志

若楓 まらも ちりも ぬき色 岩翠

若楓 まらも ちりも ぬき色 玉光

若楓 まらも ちりも ぬき色 葉柳

若楓 まらも ちりも ぬき色 葉柳

若楓 まらも ちりも ぬき色 葉柳

若楓 まらも ちりも ぬき色 葉柳

牡丹

牡丹 散けぬ 牡丹の 羅文

牡丹 散けぬ 牡丹の 成美

牡丹 散けぬ 牡丹の 春祐

牡丹 散けぬ 牡丹の 鳥扇

牡丹 散けぬ 牡丹の 樗衣

牡丹 散けぬ 牡丹の 白雄

牡丹 散けぬ 牡丹の 聽雨

芍薬

芍薬 やらうく 芍薬の 葉柳

芍薬 やらうく 芍薬の 葉柳

芍薬 やらうく 芍薬の 葉柳

芍薬 やらうく 芍薬の 葉柳

芍薬 やらうく 芍薬の 葉柳

芍薬 やらうく 芍薬の 葉柳

葵

芍薬や庭下結を以てゆく
 芍薬花虫とる人のまきとる
 日まきとる葵まきとる
 加ろの綺葵又よけをきり
 花あひひ卯花はゆめを
 咲きとる葵はゆめを
 そろとる月向んあつら
 すと縄の事の府とる
 白りや女は日まきを
 野の細目はとるや

草夫 一肖 關更 巢北 雨塘 杉長 平雄 蒼虬 笑九 耳谷

罌粟

苔花

月の夜を遠のちる花
 けりちるや仕合を
 若つとるをよとる
 かまきりはせぬ
 苔のむる面
 山を攀てはめく
 山を攀の孫は
 雪くりの雨は
 万石のせいの
 杜るさくや

五湖 五繩 樗堂 嵐丈 鹿太 素共 鳥沙 蕪村 時喜雨 東陵

杜若

家子居て々々 杜 杜

碩高

たぐりつゝめり 後 後 後

江川

鳶尾花

きりぎりすや ちのきりぎりす

全茂

はくしやの小きき 後 後 後

護物

木州茂

おろろりや ちのきりぎりす

みろ

川の末や 後 後 後

圖南

草茂 木茂 後 後 後

春鴻

日とそと 北 後 後 後

栄枝

下や 後 後 後 後

一肖

木下閣

知中や 後 後 後 後

みろ

細舟は まるきりぎりす

貸僕

義を 後 後 後 後

咲菊

穠蜂の 後 後 後 後

東岫

夏木立

菓くきり 村は 後 後 後

蕪村

此の 後 後 後 後

宗古

川 後 後 後 後

古聲

雨乞の 後 後 後 後

梅閑

かくきり 後 後 後 後

ちり

推の 後 後 後 後

護物

常盤木 落葉

松落葉

やぐくく交知る房や待葉ちる
 雪の巻ゆくけやお葉ちほ
 葦の夜吐吐るよきしちる松葉
 籾よる明のくは松ちとふりく
 浮くもや一友を葉よさそよ松
 りとれくる糸色を叶の落葉や
 しく枝てもも那き竹のおちくも
 後とく候く叶の落たのきる人
 葉の負くは葉の落葉もす(飽)
 叶の子や水鶴さるも遠まは

全夜
弓雄
李徑
輪之
淡水
米彦
玄注
袁丁
護物
壽翁

竹結
落葉

笋

叶の子や積るもてかおし
 笋やけし心家名よふる中
 瘦山や笋はくや叶よあは
 水筋の遠ふ笋河系う形
 麦刈や舟の家ハ向川岸
 麦刈のふくき糸引や新 曇
 むき刈や垢籠るうき取るる
 人本や麦とく枝も月夜よて
 菅のふくもへても老へ麦草くむ
 くつき夜の片里白ー麦の秋

みち房
有月
月耕
伊集
歸来
柳莊
河丸
護物
歸来
北冥
伯耆
歸来

麥秋

麥刈

麦秋の月ハのそとと出りけり

心非

まき林の中は梓のあけくけり

輪之

茄子

むくへくえ管の中や初茄子

梅人

まつ茄子傍の矢魚かきけり

春鴻

芋の葉は一束とてそんを山茄子

棠兆

かつき茄子のむや折ふなと

耳谷

覆盆子

さす掉ふちとたほりみの上

柙居

土のぬもち用よちりし鮫いちこ

みち辰

折し子ハ人ハあまらぬ秋いちこ

秋拳

夏夜もさふと池のまじ水痕もりり

可磨

鷹入塙

ゆふ風不吹くも鷹いちりり

古玄

塙名々の羽をのすなをるいそく

護物

杜鵑

子規刃をうけけり人の木るくぬ

万和

郭云葉の寝るまをけり

みち辰

時多ふくや澄く入るちりり

茅磨

砕さめや山浦とますちりり

若凌

ほろりりりりりりりりりりりりり

瘦菊

老鶯

鶯の老くハ恥もなるとりり

得雨

老くれり鶯のちりりりりりりり

如一

抄集上

抄集上

常の老し秋宿やうらやま 捲

小まきや老常の暮るはし

くらけや老るのあしの一葉

かんこもふくや枯木の二とろ

燈るこふもこころかんこも

采古き鳴や山田の氷きり

かんこも木葉の筋もふり

約集のうは日あや采古き

うらやまの鳴るふくはふり

割草をやくちくせくあがり

掉歌

年緒

一宵

士朗

鳥頂

蚊山

竹之

女 志修

三省

雨塘

割草鳥

鴉 鳩

うらやまの世もたつや解の流

うらやまの世もたつや解の流

うらやまの世もたつや解の流

うらやまの世もたつや解の流

うらやまの世もたつや解の流

うらやまの世もたつや解の流

うらやまの世もたつや解の流

うらやまの世もたつや解の流

うらやまの世もたつや解の流

うらやまの世もたつや解の流

輪之

一蕙

木僊

而右

音岐

玉光

石芝

春鴻

長翠

みき

行く子

鶉

物らニワと申つてゆゑる早水

丹霞

人おしへくさぬ魚る鶺鴒のくさ

護物

鶺鴒飼

かかーさの昼もくさぬ物川

袁丁

あゝく鶺鴒も歩け鶺鴒の父あゝ

成美

柳く灯を金や鶺鴒のふさのくち

蕪文

鶺鴒はひや月のくさるの情ふさ

時喜雨

鹿笛の月をさぬ鶺鴒扇の

了々

松奠

砂子のあつて起けやをい鶺鴒

吐月

ぬきまき夜はほのくさる神鶺鴒

阜池

父母の笑顔鶺鴒や初松魚

鶏山

鮎

三日月のくけもまらや初鶺鴒

石芝

およまよふ鶺鴒も持たうをい鶺鴒

栄枝

鮎くれそよしてさけ夜半のワ

蕪村

鮎とあや合款の夕日のまらるを

と法

鮎時のくさる鶺鴒や初明村

碓嶺

鮎

鮎ついで誰まいもさき身は

蕪村

手紙もさや糸の葉鮎のくねの月

魯隠

あゝあゝのむつもさき身は

三喬

鮎桶もあゝくをぬ外は

徐賞

幸ひの舟漕くくさるげら鮎

黙命

蝙蝠

くはくくく 赤とりのよりの香

寒崖

掃榻や檜桐のほ切 ~~春~~梅さる

東菽

くはくくく や是野所の相の香

竹馬

蚊喰鳥

鶴くひも 鶴さふ是も 勢も海く

葛三

蚊喰鳥のまきよ 風めあこむ 断

暁河

蝸牛

扱ふくく 草はくく 蝸牛

白鬮

みの虫は 伝ふ様もさう 蝸牛

完来

家もくぬ 家もくぬ 蝸牛

恒丸

蝸牛 天子角あるり 蝸牛

素御

蝸牛 天子角あるり 蝸牛

花陶

枝蛙

のま枝も 枝もくく 有く人伝

塊翁

雨極なく や身也も 有くも ち

南井

掌の葉も 有くも や 枝 蛙

周里

おほくも 山くく 有くも や 雨 蛙

何九

蚤

草鞋の丑也も 有くも 山くく 蚤

葛三

蚤の孫も 有くも 有くも 有くも 日

叔長

蚤一つ 有くも 持て 有くも 有くも

湖鳥

山の井も 人の汲くも 有くも 有くも 花

鷗里

及也の孫も 有くも 有くも 有くも 有くも

也六

子

子子も 有くも 有くも 有くも 有くも

有産

子子の持てくはうちうら

屋鳥

ほろろのほろろ沈むお茶

林糸

子子よふきくさのさくは

應窟

子子ら解つたるまじり

栄枝

蜘蛛子

蜘蛛の子は碓ぬき角二日碎

輪之

蜘蛛の子は日一浮世をたれ

護物

蛸

蛸も八人むくもよ 蛸のさす

乙二

糸も出く四五りぬ 蛸の径

木海

相の葉もふはく 雨のつる

去け

およもつらもまもるや 蛸のさ

一肖

毛虫

本りかや毛虫のさあも

みら辰

砂りやわりのいそぎ

一蕙

よとほつはめはる 毛ひ

方馬

素の實と共は落る 毛虫の

其芳

半よけ 蛸根のちや

六倉

蛸の血たるとく 蛸の白ひ

両考

蛸をくちちひさく 草鞋

可磨

蚊の起る時 親の痛

茶静

蚊の夜を押合つ 蚊の

板長

蚊のさくはや 漢の月

可厚

撰玉集上

三

蚊遣火

蚊のあやや糸瓜のほろも夕糸色
 蚊のあやや在藺のむはるあれ時
 糸瓜のあやや大糸瓜の蚊あやや
 蚊のあやや相のあややむ
 蚊のあややあややあややあやや
 蚊のあややあややあややあやや
 蚊のあややあややあややあやや
 蚊のあややあややあややあやや
 蚊のあややあややあややあやや
 蚊のあややあややあややあやや

心非
 菊塙
 岳輜
 三者
 牛乳
 魚皮
 嘉川
 開更
 擗堂
 雪雄

蠅

古のあややあややあややあやや
 古のあややあややあややあやや
 古のあややあややあややあやや
 古のあややあややあややあやや

三珂
 弱風

五月

うるもあややあややあやや五月
 うるもあややあややあやや五月
 うるもあややあややあやや五月
 うるもあややあややあやや五月
 うるもあややあややあやや五月
 うるもあややあややあやや五月
 うるもあややあややあやや五月
 うるもあややあややあやや五月
 うるもあややあややあやや五月
 うるもあややあややあやや五月

少汝
 嵐丈
 二竹
 双鳥
 聽雨
 柳居
 太無

懺

豊松

梅雨集

菖蒲酒

かつねのむ下戸の白ひを菖蒲酒 政二
 甘夏葉ハ庭子係免了あや免酒 太無
 傍山の月ゆくとむしや菖蒲酒 袁丁
 朝戸出や帷子まこと持の雪 篤光
 帷子やあひり夜ふる月のみ 梅月
 帷子やすきおぼしと船の月 九二
 帷子や袴ふくはさる米白き 子元
 帷子ハ忌々く懐ゆるぬ男 利雪
 狼煙ハ好のつるゆり羊夏生 草夫
 土つ流る門のむくさよ羊夏生 護物

帷子

羊夏生

梅雨

ハき洋梅雨めあつくよ梅より 伯先
 抽のやもふか実あけぬ梅のる 子長
 屯のよも伐るまよあや入梅の魚 李尺
 くるはりの下通より梅雨のる 風實
 入梅やと毒あけはくぬ糸油工 玉川
 法ゆ時や先鶴卵賣油くま 政二
 梅雨のるの徑や糸の皮形ひ 竹馬
 山より入梅くれする屋の雲 南井
 障のるくまも雲より五月る 凡十
 ささるの夕飯とやま山系より 玉泉

梅雨時

五月雨

梅雨集

五月もや一日もえぬ春の雨と 李長

船ののりきき終りや五月も 信長

片の雲のふりかきしりさみさき 女 ちさ

五月間

くまの家や草の葉志けり五月も 保吉

小よりふ雲の迹もや五月も 吾吉

秋の木の葉をゆとりさきき雲 得雨

押ハゆく戸のふはけり五月も 壺羊

虎雨

船はよ人よふたりや五月も 節志

尺八の音やうたはよきりりる 成美

鈴の鳴りゆるはうたは序りる 葉兆

夏雨

月花の門もやききりりる 輪之

彼岸ももたふ節の史はらり序りる 玉光

松山の雲もあつ立ぬか川の音 午心

豆の根は流きよはくや夏雨 露白

苗の色は坂のあき里のやうさき 乙二

萩のくの灯やまきしり仕舟苗 叙来

花のひ出さく苗をさくさる雲家ぞ 椿堂

苗のうらうらやふ孫花のさめぬら 輪之

袴の子の白くまきむる早苗うた 女 了え

川上の田もえ終りや草のりる 首三

田植

粟詩

鶴の餌をせぬのうら田植り
 水口へ粟押曲て田をさく
 直より粟をさくはくさく
 実しきハ粟人かまきく田植者
 早乙女の夕日おんくく
 昼白よ足投りけー植者
 くる人さき乙女さくさく
 早乙女の子さぬさくさく
 ささめめやさくさくハ月さく
 粟女さくさく人さくさくさく

星譜
 阜池
 栄枝
 素樸
 曉臺
 巢兆
 不根
 八朗
 冷水
 浦人

竹植日

竹の自植よまきや粟五合
 友とてさきさくさく小るさき
 さきさくさくさくさくさく
 さきさくさくさくさくさく
 竹植てさきさくさくさく
 竹植てさきさくさくさく
 月よ水さくさく人や竹植る
 竹のさくさくさくさく
 さきさくさくさくさく
 さきさくさくさくさく

玉光
 一蕙
 卧央
 万和
 丘高
 漢舟
 草夫
 士朗
 可厚
 蘭魚

若竹

山姥子花

呼通をぬ家とそ大所 掃の系

杜英

山姥子のちやまよくするやむ

玉光

くちややあし信たのるを極

志度

紫陽花

あらしのふはうらねてすむあふ

五明

はあゆむをゆぬあをふふあゆ

乙二

紫陽花の友のあまうし山り町

みろ

あらしのあふ痛まうらう山後

棹敬

はあゆむや鄙り細まうらう

乾夫

南天花

南天のあふあやまうらう小門口

鴉里

百合花

あふのあや月をの痛まは

亀丈

けしむ屋の百合うらうてまうら

成美

傘はうらう一ち切ぬ百合のあ

来鉅

百合のあし男らんらうらうらう

芳水

草の戸のあえはあをふ百合の系

はくち

姫百合

一掃ハ田よけんをうらうゆら花

楚旋

姫百合のあしあをふ山り解

行馬

夏菊

夏菊のあまうらうらう白ひら

騏道

梅子

おつるあや西日むむきらさるる底
 十日ともきぬるふき夜り菊
 夜の葉白ねる色のすくも色
 かくすやすすきもてあつしき
 ハきくさるえもあてしちうさ
 夕うさるあおれ子の川あや
 夜の笛渡あてしこのうさ也
 かくしものさる妹よようまけし
 かくしものさる傳しあけ雀
 かくしものむは看し教うさ

玉光
 栄枝
 千恵
 沙笠
 武陵
 義香
 夢南
 乙二
 竹吾

酸醬州

十薬

紅花

藻花

かくさるうさるく晴あく月夜うさ
 十薬や鈴かさるぬ戸あし家
 かくさるいむまゆいさる秋の夏
 かくさるえくさるさるやみりう水
 はまゆさるさる蓋さるうみりう水
 かくのゆさる揚さるいむやみりう水
 五の花寒車のおさるさるうさ
 さるんゆさるみさるさるのさる日さ
 藻あの花ハ夕り月出さるさるさ
 一夜さるん君ハあさるさる藻川舟

護物
 黙角
 冷水
 吐月
 雉取
 さる雄
 糸人
 三津名
 方中

藻花

藻花

川骨やまろく 故の虫くは葉

白雄

河骨や押まろく 鳴くもあま中

保吉

久ほのや 蒼蒼はくもむのくろ

釣翁

川ちのや 鶉の虫 堀る 藪の 此

周雅

蓼

蓼ののまの 音 味よき 傍の 空 腐ど

波二

雷くぬく 藪まろく ありき 音 色く

巢兆

小くろく 音 味よき 音 色く

みろく

蒼蒼まろく 畔の 蒼蒼まろく 音 色く

護物

鹿子

此まろく 音 味よき 音 色く

蒼乳

風の 音 味よき 音 色く

津人

竹の中 まろく 音 味よき 音 色く

乙二

すくろく 音 味よき 音 色く

可磨

鶯音入

音を 入る 音 味よき 音 色く

保吉

音を 入る 音 味よき 音 色く

屋鳥

水雞

朝 湯まろく 音 味よき 音 色く

素檠

田一枚 音 味よき 音 色く

木海

足知まろく 音 味よき 音 色く

音峰

水 音 味よき 音 色く

有月

蒼鷺

まるくつりつり月もわづぬ影のさか
 蒼鷺のわづらひくまの五六五
 まるくの身ふらふ風の目もくさ
 まるくの足もはらわたり色
 蒼鷺のや降ハきり風も吹
 鶴一羽清きまをわづいれそ
 勢切ふはまえてきいんそそ
 雨はくちねもふらうた菓ど
 鶴の世まきり浮菓うね
 清きりく浮菓まつまういれそ

標堂
 笛子
 知方
 玉光
 女應
 白雄
 乎泉
 万和
 于當
 野渡

鶴

鳩浮菓

鳥子

堂

照射

入るまは美のわづらひくま菓
 鳩の菓や風のまきりハ船多き
 鳥の子や盛まらうむ子のやふ
 鳥の子やまめつらう人ま鳴
 ほらほらやわづらひらそめい
 菅のまの堂を管ふ客存
 君まらや葉の堂の弱き
 かん堂極り口をうけたまに
 舌吐の犬もまらう花をうけ
 阿けかのや照射あて水の音

さう雄
 楓生
 みる彦
 護物
 首三
 典路
 菊成
 菊塙
 楓生
 若翁

舟
 漢
 舟
 士
 郎
 昌
 作
 方
 實
 護
 物
 保
 吉
 雨
 塘
 麥
 洲
 千
 枝
 蘭
 大

火串

六月

六月や白心坂の... 鹿... 眞相
 六月や... 斗入
 六月の... 湖外
 六月や舟の... 石海
 水無月... 長翠
 水... 葛三
 水... 芳居
 水... 護物
 氷室... 音牛

夏氷

ねむし〜と〜出〜少室さ
 少室さ清氷よりけも〜ぬ〜也
 梅も先〜ま〜も〜れ少室さ
 神こよのやふ〜氷室うか
 鶺鴒も舌冷きよあつ水
 無〜〜〜やこの少〜
 かがり夏の屋敷す〜や雪百尺日
 岩奥も〜〜水
 小田原〜匠志のまきよふ〜信
 不二塔離の赴〜〜月夜さ

改々
 輪之
 淡水
 一肖
 茅鷹
 蓑丁
 魚夫
 一蕙
 凡二

富士詣

祇園會

祭

鞍馬竹伐

新日や不二同所の雪の杖
 祇園會や信の〜〜梅う祥
 夕立の清塵〜波ひや非〜ろ
 祥の児笑〜花も傳〜
 鈴も〜〜桑の太鼓うか
 梅〜深〜桑の祢の夢曲突小
 鯛子も〜〜
 竹伐や法修〜た刀の尻下
 巾〜〜や巻岩〜ハ沙〜
 竹伐やふ〜〜の栢も古〜年

護物
 葦村
 柙凡
 何丸
 柙良
 白雄
 白雄
 炒扇
 一肖
 護物

施米

後河一記借ふかじり 施米ふ糸

蕪村

雨乞

人後よ七坊末て修 於米い

簞六

雨乞

雨乞ふ糸もきしらん 草の彦

得雨

土用

老傍の浪書を免ふは土用と

春光

土用

菘伐の常句や玉用入

春鴻

土用

望の檜ふ小をきし土用と

岩甲

土用

鏡子の子孫述て新入土用と

可磨

土用

草こなきの山を於小土用と

一肖

魚子

湖の魚をこきし土用と

羅城

暑

むし干やうやまおる料作人

みり彦

虫干や刀なき世のあうと

弗水

虫干やまいつる戸の相柳

大江丸

むし干や雑おつとくまくと

如毛

暑きりやむつ新のそ 枕の枝

塩叟

とらふ船つげても早し おのりま

羊裙

あつきりややうとふきの小酒壺

志げ

細干のうらふ人見き 新日くま

山有

夏日

草の戸や葎の葉まで夏日を

雨塘

夏玉集上

三

風薫

風薫る里や多病の竹の葉
 うきまゝの板の下も松陰も
 うねりもはなれぬやうに松の影
 三日月や冷くはるる夕ぐら
 れるまゝの合掌のうらみ
 ときよとや涼しき魚の灯のつら
 すしきとや果てなくの庵の
 涼しきや新息をうらむをめで
 涼しきやの常盤のまのまのま
 ぬえとやぬえとや涼しき松の葉

蘭更 盃駒 葛三 椿堂 桂裡 曉臺 岱音 成美 菅庵 八重

涼風

月涼

月すしき ねむる夜のまはる
 君さるる涼しき月の道
 涼しきや砂の口わらるる岩の月
 月涼しき 草の岸の小家か
 月涼しき 菊の影のまはるる
 散りしつちも出るる夕すしき
 はなれぬやうに夕すしき
 この橋やあるまはるる夕涼
 露の酒壺のまはるる夕涼
 ふゆとやふゆの寝るすしき

也一者 士朗 三津人 輪之 仙骨 釣翁 桐栖 志^女 柳扇 桂羅

清水

山霧の曇りまはる清氷くさ
 このはやは清水ぬふあきて山の見
 縁をもつてぬふきぬと清き心
 参りの子のとく川口はや門清き
 多の草とさむくまの清きと
 晒井や聖と清けるはのり日
 清き井やはあふのり清きと
 きき井や袂の花のちるあふ
 葛水や茨と中くさのり
 首のりやまき内儀の立のり

菊所
 三津名
 菊塙
 一穂
 素龍
 一蕙
 双湖
 凡二
 宗讚
 胡準

晒井

葛水

水飯

首のりや糸をワケり
 葛のりや夕魚の宿まぬもり
 水飯や聖ハ出て草の宿
 水飯や井の清のりく時
 水飯や喉の糸の羽織る日
 多飯やあふのり通るる
 得る川をぬきわんち
 味くくるとは清のりてん
 清のりまきとあふり一飯
 村中まきとあふり酒

完来
 みる
 乙二
 米彦
 此江
 玉光
 みる
 何丸
 蕪村
 崇兆

心太

一夜酒

篔

白く戸をなすくくむく一也酒	今夕
月うつ水ハ歌をくわわくも酒	風谷
暮らうまこはハあー一也酒	掉歌
弟のうまかてくもなむむく	万和
世のうけいもくもく	武陵
病をおまて梅二く	旧友
傍のり福のむらさよまき	一蕙
かまこの砚の赤ら色	女度
病を治ハ何もおもく	一枝
ワラ盾を南向く	三顧

竹婦人

汗拭

夏瘦

竹婦人こくもきくふ出く	曉翠
月も花もはくく	夢里
汗拭ひくもく	亀大
日くれんく	政二
古くく	管庵
夏瘦も知く	鷗里
く	玉光
く	菊後
く	素孝
く	岸根

百日紅

雪もも百日紅の日にくく

瑞馬

百日紅の日にくく

南井

凌霄花

凌霄花よく病やみ

宇彦

凌霄花や木のなき

吐月

相なくふ香も古

光浪

凌霄花や庭子湯をよ

一肖

蓮

蓮のついでに

野松

蓮のついでに

千影

蓮のついでに

袁丁

夕顔

夕白のそや名も

菊塙

ゆい白や使海ハ

雪雄

馬洗ふ門の月

秋拳

夕白のそや名も

縣卿

昼顔

夕白のそや名も

季道

夕白のそや名も

九朴

夕白のそや名も

春暉

夕白のそや名も

素樸

夕白のそや名も

市榮

夕白のそや名も

長湖

葛

印の白くわくくはく赤かきこ小瓶
 空くけの甚いありのほくくは
 約まのふつつこのあまをふま
 有くしてあまいて一羽甚くく
 鳴くくに尺ぬ花白きむくくか
 花律彦を伝のむらくく
 むむくく折角望く仕家く
 急鳴を物くけかやハま彦
 有くくくくあま極くむくく
 丹くくくの歌子すくくや麻の中

可厚
 二柳
 關更
 葛兆
 万和
 竹因
 指鬪
 衣丁
 黒船
 蒼虬

葎花

麻

綿花

瓜花

瓜はくく情さくくや麻くくけ
 麻越くくくくくくくくく
 麻のあの手くやまき青の雨
 福くくや麻もむくくく月
 二吹金くくくくくくく
 ちくく地漬のいさくや後り花
 くく畑は昼のまき上草いきき
 夜のほくく沙汰くくくや後りま
 雷くく小をくくや瓜のま
 の里はくくくく瓜のく

百嬰
 幽季
 芦舟
 護物
 孤山
 菊塙
 ちん美
 亀丈
 葎村
 玉屑

梅五

一掉ハまき田へソぬるワ
以送るまき田やゆの波く形
乙多の羽なゆさハまき田
始ぬりて言を持し青田
尺く通る行かぬか二番
太麻をいしきまを色田
もの表りつたもゆき田
川物やまきわらぬ藻の
川物やけりまきわらぬ
川物やまきわらぬ

梅 價
東 弘
炉 扇
有 臺
分 彦
表 丁
霞 湖
泉 水
鷄 六
都 克

川 狩

田 取

羽 枝 鳥

翡 翠

蟬

川物の竹まき出るはくぬ
川物まきわらぬまきわらぬ
まきわらぬまきわらぬ
まきわらぬまきわらぬ
まきわらぬまきわらぬ
まきわらぬまきわらぬ
まきわらぬまきわらぬ
まきわらぬまきわらぬ
まきわらぬまきわらぬ
まきわらぬまきわらぬ

孤 舟
竹 市
葛 三
叙 素
笛 三
吐 月
玉 光
菴 十
岱 音
表 丁

茅輪

孺の毛や名越もくくの川をゆる

輪之

水々るるんてぬけるちの輪を

岱音

草いもわさめしと秋の茅輪を

尼星布

造作おしく出まらばしき茅輪を

心非

人きく若もくく秋のちのちをか

里朝

秋近

秋らうくちもや吉原のやうな

女彦

あまもくあまや怪ふく秋の葉

茅磨

夏杲

夏らるる夏度もかき江の小家

竹吾

け夏の水う屋もくくなく地

河道

川水の追もくくけや夏杲は

寒多松

藤井 慶一郎

藤野 上虚亭



Handwritten text in black ink, possibly a signature or date, located at the bottom right of the right page. The text is written in a cursive style and includes the word "Present" and some numbers.



念愈春

子
好
蘇
井
家
修
命

